

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「自由と規律」のもと、人間尊重に徹した、真に国際社会に通用する「明るく、たくましく、心爽やかな人間」を育成する。

1. キャリア・アップ（より高い資質や能力を身につける）をめざして夢・目標を主体的に見つけようと努力し、進路実現に向けてまじめに積極的に取り組む生徒を育てる。
2. 授業だけでなく、学校行事や部活動・ボランティア活動にも意欲的に参加する生徒を育てる。
3. 挨拶や社会のマナーを大切に、社会に貢献する人になる意欲のある生徒を育てる。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業、考える授業」をめざし授業力向上に取り組む。

ア 授業力向上委員会を核に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、授業力向上に組織的に取り組み、ICT 機器を活用した効率的な授業についても研究を進める。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定的回答（平成 29 年度 58%）を毎年 3 ポイント引上げ、2020 年度には 67%にする。

2. 夢と希望を持つ生徒育成

(1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、組織的・計画的な進路指導体制を確立する。

ア 3年間を通して継続的かつ計画的に進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および職業などについてキャリア教育を行う。

イ 3年間を通じた計画的な講習の実施により、早期から進路実現に向けて努力させる。

※進学率 85%以上（平成 29 年度 79.5%）、未定率 2%以下（平成 29 年度 1.0%）を維持する。

(2) 「総合的な学習の時間」と LHR を有機的に連携させ、キャリア教育、人権教育等を総合的に行うことができる指導計画を確立する。

※生徒向け学校教育自己診断における進路に関する情報提供の肯定的回答（平成 29 年度 72%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 78%にする。

※生徒向け学校教育自己診断における人権について学ぶ機会の肯定的回答（平成 29 年度 79%）の 80%以上を維持する。

(3) 保護者向け進路説明会の実施および保護者への進路情報の提供

ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画、実施すると共に、進路情報を積極的に発信する。

※保護者向け学校教育自己診断における進路に関しての情報提供（平成 29 年度 56%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 62%にする。

3. 安全安心で魅力のある学校づくり

(1) 生徒の規範意識を醸成すると共に、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 朝の職員連絡会や SHR を通して、生徒の状況を把握、共有し、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。

イ 教育相談体制を充実させ、生徒や保護者そして教職員も安心して相談できる体制を作る。

ウ 互いの違いを認め合い、「ともに生きる」精神を育成し、学校に来るのが楽しいと感じる環境を作る。

※遅刻（平成 29 年度 4142 件）を毎年 100 件ずつ減少させ、2020 年度には 3800 件以下にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答（平成 29 年度 70）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 76%にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答（平成 29 年度 69%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 75%にする。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア クラブや文化祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。

※生徒向け学校教育自己診断における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（平成 29 年度 66%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 72%にする。

※生徒向け学校教育自己診断における「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答（平成 29 年度 49%）を毎年 2 ポイント引上げ 2020 年度には 55%にする。

(3) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者との連携および環境の整備を行う。

ア 保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。

イ 事故防止の取り組みを進めるとともに、緊急事態発生時の連絡体制の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。

※職員向け学校教育自己診断における「事故・事件等に迅速・適切に対応」（平成 29 年度 61%）を毎年 2 ポイント引き上げ 2020 年度には 67%にする。

4. 地域・保護者と連携した学校づくり

(1) 学校 Web ページを充実させ広報活動に努める。

ア Web ページおよびブログを定期的に更新し、本校の取り組みを地域・保護者に発信する。

※保護者向け学校教育自己診断における「学校は教育情報について提供の努力をしている」の肯定的回答（平成 29 年度 55%を毎年 2 ポイント引き上げ 2020 年度には 61%にする。

(2) 地域との連携に取り組む

ア KEYS（貝塚警察署との連携した活動）等のボランティア活動を継続発展させる。

イ 地域の学校等との連携を活発に行う。

(3) 広報活動を活性化し、本校の取り組みを中学生や保護者、地域に発信する。

ア 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。

5. 教職員の資質向上と意識改革

(1) ICT を活用して校務の効率化を図る。

ア ICT 機器を効率的に活用し、さまざまなデータの共有・情報共有を行うと共に、事務作業等の軽減化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。

(2) 校内での教職員研修を積極的に行うと共に、外部で実施される研修等にも積極的に参加する。

ア 教職員の資質向上をめざした教員研修を計画的に実施する。

(3) 働き方改革の取り組みを行い、職員が生徒と向き合う時間を増やす。

ア 校務の見直しを行うと共に、継続性を持った業務を実施することにより、職員の負担を軽減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】授業力向上委員会が中心となり、校内研修を行い、研究授業や授業観察等を積極的に行った。生徒アンケートで「授業がわかりやすい」の肯定的回答は 57%と昨年度よりも 1 ポイントダウンした。今後も ICT 機器などを効率的に活用するなど、授業力向上の取り組みを継続する。教職員アンケートで「授業方法を研究する機会を積極的に持っている」の肯定的回答は 91%と昨年度よりも 8 ポイントアップしており、教員の意識は向上しているので、取り組みを継続して実施したい。</p> <p>【生徒指導等】生徒向けアンケートで「先生の指導は納得できる」の肯定的回答は 54%と昨年度よりも 1 ポイントダウンした。頭髪や服装指導などを行う際に、生徒に丁寧に説明するなど、さらに納得させる指導に取り組みたい。生徒用アンケートで「悩みごとや相談を聞いてくれる」の肯定的回答は 67%と昨年度より 3 ポイントダウンした。今年度教育相談体制を見直し生徒が気軽に相談室を利用できる体制を作ったことによりアップしたが、相談室の存在を知らない生徒もいる可能性があるため、周知し活用を促すと共に、生徒</p>	<p>第 1 回（6 月 15 日実施） 子どもの減少という現状もあり、もう少し特化して PR（貝南でこれを学べばこういう進路がある）を行うべき。第 2 学年において家で勉強しないという課題があったが、具体的な取り組みを考える必要あり。資料を見ると教員はより大変。人間を相手にしている。人を育てるとことは本当に大変である。子どもたちはスマートフォンの使用時間が益々増えていきアンバランスな知識を得ている。新聞を読まない、葉書などの常識を知らないなどもあり、教えることが多い。</p> <p>第 2 回（11 月 30 日実施） 高校生意識調査アンケートで、2・3 年になるにつれて生徒達は教員や学校に対して好意を持つようになってきている。授業見学でも積極的に発言している様子が伺えた。今後、班活動や教え合い活動などを増やしていくとさらに良くなるはず。合唱コンクールも、取り組み</p>

府立貝塚南高等学校

<p>が気軽に先生に相談できる雰囲気を作っていきたい。</p> <p>【学校運営等】生徒アンケート「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的回答は77%で昨年度よりも2ポイントダウンした。卒業までの3年間を通して人権教育の計画を立て、授業やHR等を通じて充実した人権教育を行っていききたい。生徒アンケートで「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答は66%で昨年度と同じである。さらに内容の充実などに取り組んでいきたい。生徒アンケートの「クラブ活動は活発である」の肯定的回答は69%と昨年度より4ポイントアップした。クラブ加入率も昨年度より上がっているため、今後もクラブ加入に向けての取り組みと、活動内容の充実をすすめていきたい。</p>	<p>を続けていけば、生徒の意識も変わり、どんどん自主的に行動するようになるので、今後も開催してほしい。</p> <p>高校生意識調査アンケートで、図書室を一度も利用したことがない生徒が非常に多く、読書経験が少ない様子が伺える。この点について学校を挙げて取り組むと良い。今後も助け合いの精神を育てるためにボランティアなどに取り組んでほしい。</p> <p>第3回(2月19日実施)</p> <p>ICT機器などを活用した授業力向上に取り組む一方で、板書の仕方など授業の基本的なことを特に若い教員が学ぶべきである。中学校の英語でも4技能の育成に取り組んでいる。学力テストでもスピーキングが入り、試行を行ったが教員および生徒の慣れ、マシントラブルなどもあった。できるだけ早い段階から取り組んだ方がよい。中学3年の入試前調査で希望者を増やすためには、目玉になるクラブ活動やさまざまな取り組みの外部への発信力を強くしていく必要があると思う。遅刻数の減少のためには、教員がチャイムが鳴る数分前に教室に向かう週間を実施するなど、授業を大切にしている意識づけを行うことも一つの方策ではないか。働き方改革や職員のストレスを減らすことについては、仕事の軽減などを考えることも必要であるが、疲れた時の身体を休める環境を整備するなど、仕事とは直接関係のない環境を整えることも必要だと思う。</p>
--	---

3 本年度の取組内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価(1/末現在)
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業・考える授業」をめざした授業力向上 ア 授業力向上をめざした取組</p> <p>イ 授業アンケートの効果的活用</p> <p>ウ ICT機器を活用した授業の研究・実施</p> <p>エ 自学自習の推進</p> <p>オ 図書館の活用および読書活動の推進</p>	<p>(1) ア 授業力向上委員会が中心となり、授業力向上の取組(研修、相互授業観察、研究授業など)を計画的に実施する</p> <p>イ 授業アンケートを実施し、各教員が結果を分析し、「授業アンケート結果分析シート」を作成する</p> <p>ウ ICT機器を活用した授業力向上について研究を進め、ICT機器を活用した研究授業を実施昨年度全教室に設置したプロジェクター等を有効に活用する</p> <p>エ 授業を通じて教科・科目の学習への興味・関心を高める努力を進める ・生徒の生活実態を把握し、学校だけでなく家庭での学習時間を確保し、授業に臨めるようにする</p> <p>オ 図書館を授業や総合的な学習の時間で多目的に活用すると共に、図書館の利用を促す図書館の図書に充実を努めると共に、図書委員の活動を活発にし、生徒の読書活動を推進する</p>	<p>(1) ア 授業観察週間の実施、授業の相互観察年間延べ(H29 191回)180回以上を維持</p> <p>イ 2回の授業アンケート実施後に全教員が「授業アンケート結果分析シート」を提出する 学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答(H29 58%)65%以上 第2回授業アンケートの「興味関心を持つことができた」のよくあてはまる(H29 29%)33%以上 第2回授業アンケートの「知識技能が身についた」のよくあてはまる(H29 30%)35%以上</p> <p>ウ ICT機器活用に関する研修を4回以上実施する(H29 2回) ICT機器を活用する教員の割合(H29 52%)70%以上</p> <p>エ 基礎学力調査(9月実施分)の1日あたりの学習時間1時間程度以上の割合(H29 1年30%、2年21%)1年35%以上、2年25%以上</p> <p>オ 校内読書感想コンクールの継続実施 図書委員の活動を年間(H29 49回)50回以上実施 年間の図書貸し出し冊数(H29 153冊)300冊以上</p>	<p>(1) ア 教科ごとの研究授業を実施すると共に授業の相互観察182回実施 (◎)次年度は「めざすべき授業」等を議論、共有し、取り組みを継続実施</p> <p>イ 2回の授業アンケート実施、全教員が「授業アンケート結果分析シート」を提出、学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定的回答(57%)、第2回授業アンケートの「興味関心を持つことができた」のよくあてはまる(27%)、第2回授業アンケートの「知識技能が身についた」のよくあてはまる(28%) (△)、次年度は「めざすべき授業」等を共有し、授業力向上に継続的に取り組む</p> <p>ウ ICT機器活用に関する研修3回実施、ICT機器を活用する教員の割合71% (○)、次年度も研修や研究授業を通じて、効率的な活用を行う</p> <p>エ 基礎学力調査(4月実施分)の1日あたりの学習時間1時間程度以上の割合1年34%・2年25%(○) 次年度は自習室を確保し、施設の充実に努める</p> <p>オ 校内読書感想文コンクール1・2年全員、3年有志40名提出、図書委員の活動24回実施、年間の図書貸し出し冊数(生徒369冊、職員42冊、計411冊)、府人権作文コンクールで2名が優秀賞受賞 (○)、次年度も教科や総合の時間等で読書を薦めていく</p>

府立貝塚南高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価(1/未現在)
2 夢と希望を持つ生徒育成	(1)生徒の希望する進路の実現 ア 3年間を通して進路指導に取り組む	(1) ア 進路目標を早期に設定させる取り組みを行い、3年間を見通した指導計画を立て、HRや総合的な学習の時間等を通じて、計画的にキャリア教育を行う	(1) ア HR等を活用した学年全体での取り組み(H29 1年5回 2年5回 3年3回)1・2年5回、3年3回以上実施	(1) ア HR等を活用した学年全体での取り組み(1年8回 2年11回 3年3回)、その他各種説明会等の実施(◎) 次年度は新入試への対応も含め、内容等を再検討し実施する
	イ 生徒情報の共有	イ 定期考査および基礎学力調査の結果から生徒の学力推移を分析し、進路指導に活かす。また、進路希望等の情報を学年・教科・分掌間で共有し、希望する進路を見据えた指導を行う	イ 基礎学力調査後に分析会を実施(1・2年2回、3年1回) 学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定的回答(H29 60%)63%以上	イ 基礎学力調査(4・9・1月実施)後に分析会を実施(1・2年3回、3年1回) 学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定的回答 60% (○)、次年度も継続して調査を分析し指導に生かす
	ウ 計画的な講習の実施	ウ 進路目標達成に向け、進路指導部が中心となり、進学や就職のための説明会や講習等を計画・実施する	ウ 各学年進学講習 1年 30回、2年 70回、3年 250の計 300回以上を維持(H29 314回)	ウ 各学年進学講習 1年 16回、2年 48回、3年 83の計 147回(△)、次年度は各学年とも内容の充実、生徒、保護者への周知につとめる
	エ 進路情報の積極的な発信	エ 進路だよりや進路説明会などを通して、最新の進路情報を積極的に提供し、進路に対する理解を深める	エ 学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答(H29 71%)75%以上	エ 学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定的回答 70%(△)、次年度は進路説明会の内容の充実を行い、進路だより等での情報発信を継続する
	(2)コミュニケーション能力の育成 ア 班活動や発表機会を増やす	(2) ア 各授業、HR、総合的な学習の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やす	(2) ア 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答(H29 55%)60%以上	(2) ア 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定的回答 58%(△) 次年度は総合的な探究の時間での取り組みを検討すると共に、授業等で今後も機会を作る
	(3)保護者への進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の内容充実	(3) ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する	(3) ア 保護者向け進路説明会への参加(H29 157名)160名以上	(3) ア 保護者向け進路説明会への参加 101名(△)、次年度は保護者が参加しやすい形に実施方法を再検討
イ 保護者への進路情報の積極的な発信	イ 進路だよりなど保護者への情報提供も見据えて作成すると共に、メール配信なども活用して、保護者に確実に情報が伝わるようにする	イ 学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定的回答(H29 56%)60%以上	イ 学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定的回答 56%(△)、次年度は説明会に加え、メール配信や学校ブログ等でも情報提供に努める	

府立貝塚南高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価(1/末現在)
3 安全安心で魅力のある学校づくり	(1) 生徒の規範意識の醸成と支援体制の強化 ア 職員室の効率的な活用による指導力向上	(1) ア 職員室を効率的に活用し、日常的に生徒情報の共有を図ると共に、担任・副担、学年団などでの OJT を通じて、教員の指導力向上を図る	(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答(新規)60%以上	(1) ア 毎朝の職員連絡会を効率的に実施、毎週実施の学年会等で情報共有等を実施、学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定的回答 89% (◎)、次年度はさらに連絡を密にし継続実施
	イ 登校指導等を通じて、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う	イ 朝の登校指導や朝の SHR などを通じて、遅刻・服装・頭髪指導などの規律指導を行う ・指導の際に生徒が納得するよう丁寧に指導する	イ 朝の登校指導や昼休みの指導の継続実施 年間述べ遅刻回数(H29 4142回)4000回以下を目標とする 学校教育自己診断(生徒)の「先生の指導は納得できる」の肯定的回答(H29 55%)57%以上	イ 朝の登校指導や昼休みの指導を継続実施、1月末までの遅刻回数(1年1045回,2年1144回,3年2011回)計4200回、学校教育自己診断(生徒)の「先生の指導は納得できる」の肯定的回答 54% (△)、次年度は指導の内容の検討も行い継続実施
	ウ 教育相談・支援体制の充実	ウ 教育相談委員会が中心となり、生徒が気軽に相談室を活用できるようにする ・SC との連携やケース会議の充実、関係機関等の連携を図る	ウ 学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答(H29 69%)55%以上	ウ 相談室の環境整備、次年度スクールカウンセラーに加え、教育実習相談実習生の活用、学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答 69% (◎)、次年度も相談室、SC の活用等継続実施
	エ 互いの違いを認め合い、「共に生きる」精神を育成する	エ 人権教育の体系化を図り、生徒へ人権の大切さを学ばせる ・教職員の人権意識を高めるための研修機会について検討する	エ 学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答(H29 79%)80%以上 学校教育自己診断(教職員)の「いじめが起こった際の体制」の肯定的回答(H29 82%)85%以上	エ 学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定的回答 77%、学校教育自己診断(教職員)の「いじめが起こった際の体制」の肯定的回答 82% (△)、次年度は HR の内容の充実、小さなことも見逃さず指導を行う
	(2) 特別活動を通じ、豊かな高校生活を実現させる ア 部活動入部率の向上と部活動の活性化	(2) ア 新入生対象の部活動紹介や体験入部を通じ、部活動入部率の向上と部活動の活性化を図る	(2) ア 1年生全員が体験入部。その後も継続的に加入勧誘。 部活動加入率(H29 48%)50%以上	(2) ア 1年生全員が体験入部、その後も継続的に加入勧誘、部活動加入率 51.4% (◎)、次年度も部活動の活性化の取り組みを進め、継続して加入勧誘
	イ 学校行事の活性化	イ 生徒のニーズをつかみ、その実現により文化祭等の行事を活性化する	イ 学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫」の肯定的回答(H29 66%)68%以上 学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しみ」の肯定的回答(H29 69%)71%以上	イ 学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫」の肯定的回答(H29 66%)66%、学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しみ」の肯定的回答 73% (○)、次年度も内容の充実等に努める
	(3) 保護者との連携および環境の整備 ア 保護者との連携	(3) ア 日常的に家庭との連絡を密にし、保護者との連携により、生徒の指導や支援を行う	(3) ア 学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答(H29 59%)60%以上	(3) ア 懇談会の実施等家庭との連絡を密に行う、学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定的回答 64% (◎)、次年度も連絡を密に取り家庭との連携を図る
	イ 美化活動等の環境整備	イ 生徒保健委員会等の生徒主体の活動を尊重し、望ましい学習環境を自らの行動によって支える意識を高め、すべての生徒が進んで美化活動等の環境整備に取り組むことができるよう支援を行う。	イ 学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答(新規)56%以上	イ 清掃用具整備の実施、学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定的回答 41%(△)、次年度は生徒保健委員会も活用するなど校内美化に努める
	ウ 施設設備の点検・管理	ウ 校内の危険個所のチェックを行い、改修に努める	ウ 学校教育自己診断(職員)の「施設・設備についての点検・管理」の肯定的回答(H29 54%)56%以上	ウ 安全点検の実施、台風 21 号による被害への対応を全職員、生徒等にて実施、学校教育自己診断(職員)の「施設・設備についての点検・管理」の肯定的回答 47% (△)、次年度は安全点検実施後の対応を迅速にするなど改善に取り組む

府立貝塚南高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価(1/未現在)
4 地域・保護者と連携した学校づくり	<p>(1)開かれた学校作り ア 学校 Web ページ、ブログによる情報発信</p> <p>イ メール配信の活用</p> <p>(2)地域への情報発信 ア ボランティア活動の継続発展</p> <p>イ 地域の学校等との連携</p> <p>(3)広報活動の活性化 ア オープンスクール等学校説明会の実施</p>	<p>(1) ア 広報委員会が中心となり、学校 Web ページおよびブログの情報更新を活発に行うと共に、内容の充実を図る</p> <p>イ メール配信を保護者に周知し、登録者を増やすと共に、メール配信システムを効率的に活用し、保護者への情報発信を行う</p> <p>(2) ア KEYS (貝塚警察署との連携) 等ボランティアの継続実施および内容充実</p> <p>イ 近隣の保育園での保育体験実習の継続実施 部活動等を通じて地域との連携を図る</p> <p>(3) ア 部活動オープンスクール、体験授業オープンスクール、文化祭の公開などを通じて、中学生向けに本校の取り組みを発信する</p>	<p>(1) ア ブログの更新を積極的に行い年間180回以上の更新(H29 186回)を維持 Web ページのアクセス数 30,000 アクセス以上(H29 29,197 アクセス)</p> <p>イ メール配信登録者を在籍数の70%以上(H29 67%) メール配信を活用し、日常的に情報発信し年間100通以上(H29 63通)</p> <p>(2) ア 年間8回以上の活動実施を維持(H29 8回)</p> <p>イ 保育体験実習を年間10回以上実施を維持(H29 12回) 中学校や地域との連携した活動として、年間10回以上の活動を行う(H29 11回)</p> <p>(3) ア 部活動オープンスクール、体験授業オープンスクール、文化祭等への中学生の参加者370名以上(H29 353名)</p>	<p>(1) ア ブログの更新202回、Web ページのアクセス数32,899アクセス(◎) 次年度は内容を充実させ、さまざまな情報を発信する</p> <p>イ メール配信登録者(1年260名,2年232名,3年82名)在籍に対する割合77.8% 緊急連絡や配付プリントの連絡等メール配信102通配信 (◎)、次年度も機会あるごとにメール配信登録を薦め80%以上の登録を目標とする</p> <p>(2) ア KEYS の活動8回実施、その他ボランティア等18回 (◎)、次年度も継続実施すると共に生徒への呼びかけを活発に行う</p> <p>イ 保育体験実習12回実施、中学校や地域との連携した活動14回実施(◎) 今後も継続実施</p> <p>(3) ア 部活動オープンスクール128名、体験授業オープンスクール176名、文化祭36名の中学生、保護者等の参加(340) (△)、次年度はオープンスクール等の行事による広報活動の内容の充実に努める</p>
5 教職員の資質向上と意識改革	<p>(1)ICT 機器を活用した校務の効率化 ア ICT機器を活用し校務の効率化を図る</p> <p>イ 統合ICT、校務処理システムの活用</p> <p>(2)教員研修実施、授業見学や外部実施研修への積極的参加 ア ニーズに合った教員研修の実施</p> <p>イ 他校への授業見学等</p> <p>(3)働き方改革の取組 ア 校務の見直しおよび継続性を生かした業務</p>	<p>(1) ア 統合ICTの共有フォルダの活用など、データを共有化させることにより、教科・学年・分掌等それぞれの情報を共有し、校務の効率化を図ると共に、校務を組織的かつ継続的に行う</p> <p>イ 統合ICTや校務処理システムを効率的に活用し、事務作業の軽減化を図る</p> <p>(2) ア 教員の資質向上をめざした教員研修の実施、若手教員を中心とした勉強会の積極的実施</p> <p>イ 他校への授業見学や授業研究に関する研修会等への積極的参加</p> <p>(3) ア 仕事の精選をすると共に、継続性を追求し、職員の異動等があっても授業や業務がスムーズに行われるようし、働き方改革に繋げる</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができています」の肯定的回答(新規)60%以上</p> <p>イ 学校教育自己診断(職員)の「ICT機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定的回答(H29 64%)65%以上</p> <p>(2) ア 職員研修10回(H29 12回)以上を維持、若手勉強会10回(H29 11回)以上を維持 他校への授業見学を含めた研修会を1回以上実施(H29 1回)</p> <p>イ 他校への授業見学や授業研究に関する研修会等への参加30名(H29 27名)、校内での研究授業7回(H29 7回)以上</p> <p>(3) ア 教員の時間外勤務の月平均時間数(H29 41時間)40時間以下</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができています」の肯定的回答67%(◎) 次年度は教科の教材の共有を進めていく</p> <p>イ 学校教育自己診断(職員)の「ICT機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定的回答92%(◎)</p> <p>(2) ア 職員研修18回、若手勉強会19回、授業力向上全体研修会3回実施、他校への授業見学を含めた研修会2回(支援学校および児童養護施設) (◎)、次年度も継続して実施</p> <p>イ 他校への授業見学や授業研究に関する研修会等への参加のべ35名、校内での研究授業23回 (◎)、次年度も積極的に継続する</p> <p>(3) ア 教員の時間外勤務平均41時間20分/月(△) 次年度は安全衛生委員会および運営委員会で方策検討、業務の見直し等を行う</p>